

ルール違反は災いの元

作業ルールは知っていたけど守らなかった・・・その結果ケガをして痛い思いをする事例が増えています。実際に起こった内容を元になぜ作業ルールがあるのか、守らなかったらどうなるか、改めて確認しましょう。

● 作業ルールを守らずにケガをした事例

事例 1. 箱を固定していた左手薬指にカッターナイフの刃が当たり、切傷

作業内容	段ボール箱の開封作業
作業ルール	箱の蓋部分をはさみで開封、カッターナイフの使用は禁止されている
実際の行動	①箱の仕様変更もあり、 箱の側面を開封 した。 ②開封作業をしやすいするため、 私物のカッターナイフを使用 した。 ③刃の進行方向に左手を置き、段ボール箱を押さえた。



左手薬指を切創

カッターナイフは扱いやすい反面、手や指を切る危険が大きい道具でもあります！

事例 2. 溶剤が左手にしみ込み、水膨れと激しい痛み

作業内容	溶剤入り洗浄桶の中でパイプを洗浄する作業
作業ルール	ゴム手袋を着用し、所定の道具でパイプの出し入れを行う
実際の行動	①作業をしやすいため、 直接左手でパイプを取り出した 。 ②手に違和感を感じたが、ゴム手袋内部の汗による蒸れだと思い、そのまま作業を継続した。



左手薬傷

溶剤は物を溶かす性質を持つため、直接取り出す行為は非常に危険です！

事例 3. 配管に足を引っかけて転倒し、頭部を裂傷

作業内容	設備エリアの決められた通路から作業場へ移動
作業ルール	設備の裏側は幅が狭く下に配管があるため、通行を禁止されている
実際の行動	①終業前の時間ということもあり、少しでも早く戻ることを考えた。 ②近道をするため、 設備の裏側を通った 。



頭部（左目上）裂傷

通行禁止とされる場所は、人が通れるように整備されていないため、危険です！

● 作業はルールを守ることが最優先

『作業がしやすい』『近道で早く着く』など、便利さや時間を優先するあまりルールがおろそかになる傾向があります。ルールを守らずに行動すると自分自身だけでなく、周りの人に痛い思いをさせることもあります。作業ルールはケガをしない（させない）ためにあります。ルールの目的を改めて意識しましょう。